

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅栄養支援の和 人材育成プロジェクト(第 1 報) 一人材育成プログラム開発のための、「栄養」の役割に関する考察
演者名	奥村圭子 ¹⁾ 武内有城 ²⁾ 金子康彦 ³⁾ 今泉良典 ³⁾ 洪英在 ⁴⁾
所属	1)名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科 2)たけうちファミリークリニック 3)国立長寿医療センター栄養管理部 4)三重大学大学院医学系研究科津地域医療学講座/県立一志病院

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的: 低栄養は自立を妨げるが、低栄養のまま自宅へ退院し食生活に不安を持つ患者は多い。国は自立支援を目的とした地域包括ケアシステムの施策を推進しているが、地域高齢者の外来患者の 28%が低栄養との報告もある。しかし、訪問栄養士との連携は 0.3%と進んでいない。本研究では、地域における「栄養」の役割について考察を行う。

方法: 趣旨に同意の得られた愛知県の医療介護専門職 62 名を対象に自記式アンケート調査を実施した。内容は、職種、現職種の経験年数、地域包括ケアシステムの知識の有無、地域包括ケアシステムにおける栄養の役割、訪問栄養士との連携経験、訪問栄養士との連携困難理由を調査した。統計解析は、Mann-Whitney *U* 検定、kruskal Wallis 検定、Spearman の相関係数、回帰分析により検定した。統計解析ソフトは IBM SPSSver. 22 を用い、有意水準は $p < 0.05$ とした。

結果: 訪問栄養士との連携経験者（以下、連携経験者）は 62 名中 15 名（24.2%）であった。その所属は病院 46.7%、施設 20.0%、在宅 33.3%であった。最も連携のあった職種は、管理栄養士 23%であった。連携経験者は「地域包括ケアシステム」について連携未経験者よりも有意に認知率が高かった（ $p < 0.001$ ）。全対象者に対し地域包括ケアシステムにおける「栄養」の役割を質問したところ、連携経験者は連携未経験者よりも介護予防支援、在宅療養者の生活支援、生活習慣病の改善、摂食嚥下障害者支援に役割があると有意に答え（ $p < 0.001$ ）、介護予防支援に「栄養」の役割があると答える傾向にあった（OR0.042、95%CI0.08-0.215）。

考察: 高齢者の介護予防に対する専門職の認識は自立レベルにより異なるが、今回はその詳細について言及していない。今後は、地域における介護予防を理解し必要な在宅栄養支援内容を検証し、在宅栄養支援に貢献する人材育成のためのプログラムを作成する予定である。

結論: 医療介護専門職が考える地域包括ケアシステムにおける「栄養」の役割は、介護予防のための栄養支援であることが分かった。